

水産技術センターで令和2年度に終了する課題について

課題名	期間	目的	内容	結果
電気ショッカーを用いたブラウントラウト駆除技術	2017～2020年度	<p>ブラウントラウトは、養殖・遊漁で活用される一方、魚食性が強く、在来魚への影響が大きいことから産業管理外来種と位置づけられている。ブラウントラウトの駆除技術を開発することで、河川の健全な生態系保全と養殖業の持続的振興を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気ショッカーを用いて、河川規模の大きい川幅約6～7mのA河川(富士川水系)で2012～2020年度に51回、河川規模の小さい川幅約2～3mのB河川(相模川水系)では2018～2020年度に45回の駆除を実施した。 2. A河川上流区において、ブラウントラウト採捕数は、駆除開始後急減し、開始2年以後には2012年の24.5～4.7%に減少したが、少数ながら採捕が認められた。 3. B河川において駆除開始3年目の2020年度に3回連続でブラウントラウト採捕数が0となり、完全駆除を達成したと考えられた。 4. 河川規模が小さく電気ショッカーの電極が届くような河川では完全駆除が可能であるが、規模が大きく電気ショッカーの電極が届かず隠れ場所の多い河川では、完全駆除は難しい。 5. ブラウントラウトの駆除に伴いヤマメ資源も回復し、ブラウントラウトの生息が在来魚に負の影響を与えている。 	<p>ブラウントラウトの生息が確認されたA河川およびB河川で電気ショッカーを用いた駆除を実施した。河川規模の小さいB河川では完全駆除を達成したと考えられた。河川規模の大きいA河川では生息数を大幅に減少させたが完全駆除に至らなかった。今後の外来魚対策と在来魚保全に繋がる有益なデータが得られたことから、成果情報として取りまとめた。</p> <p>成果情報名 「電気ショッカーを用いたブラウントラウト駆除技術」</p>